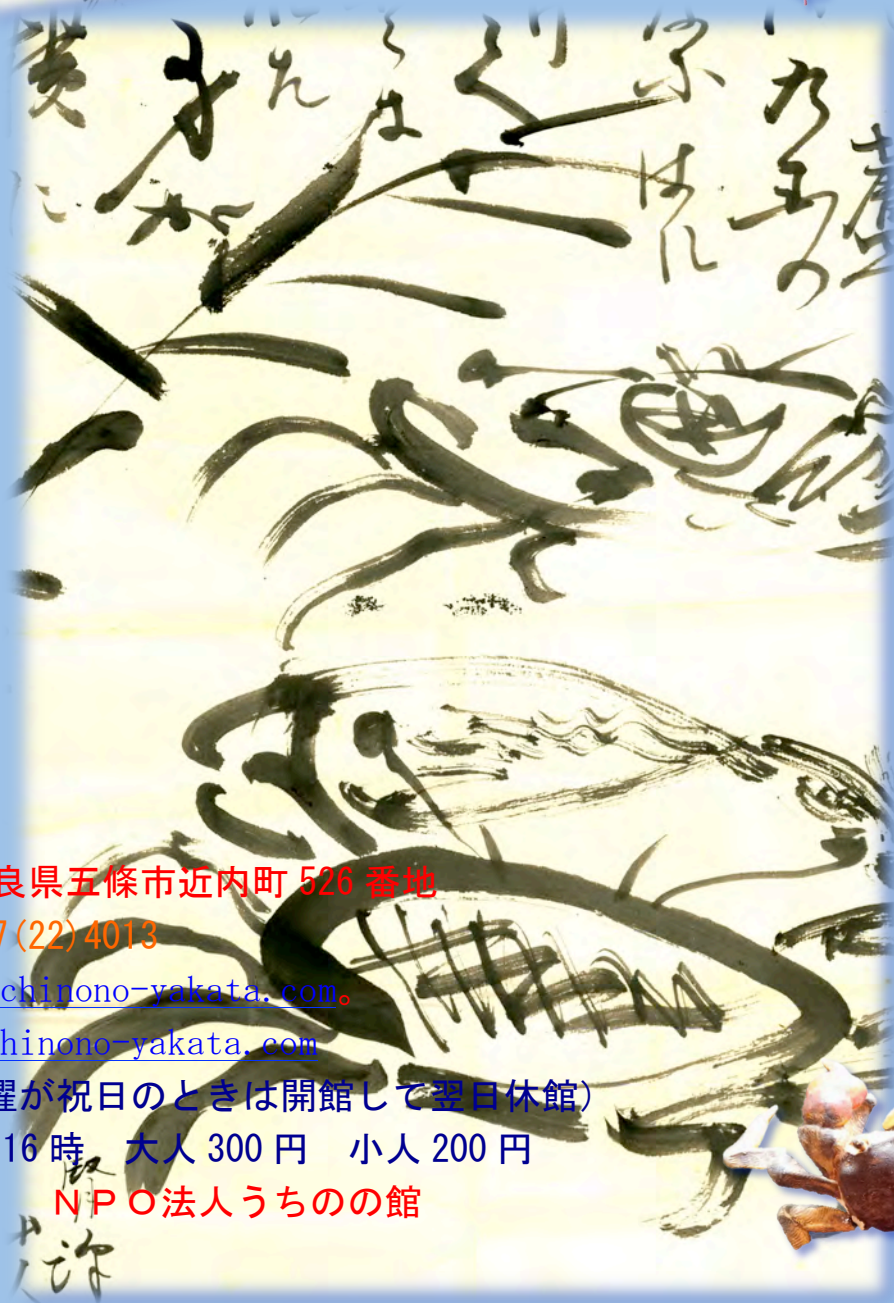
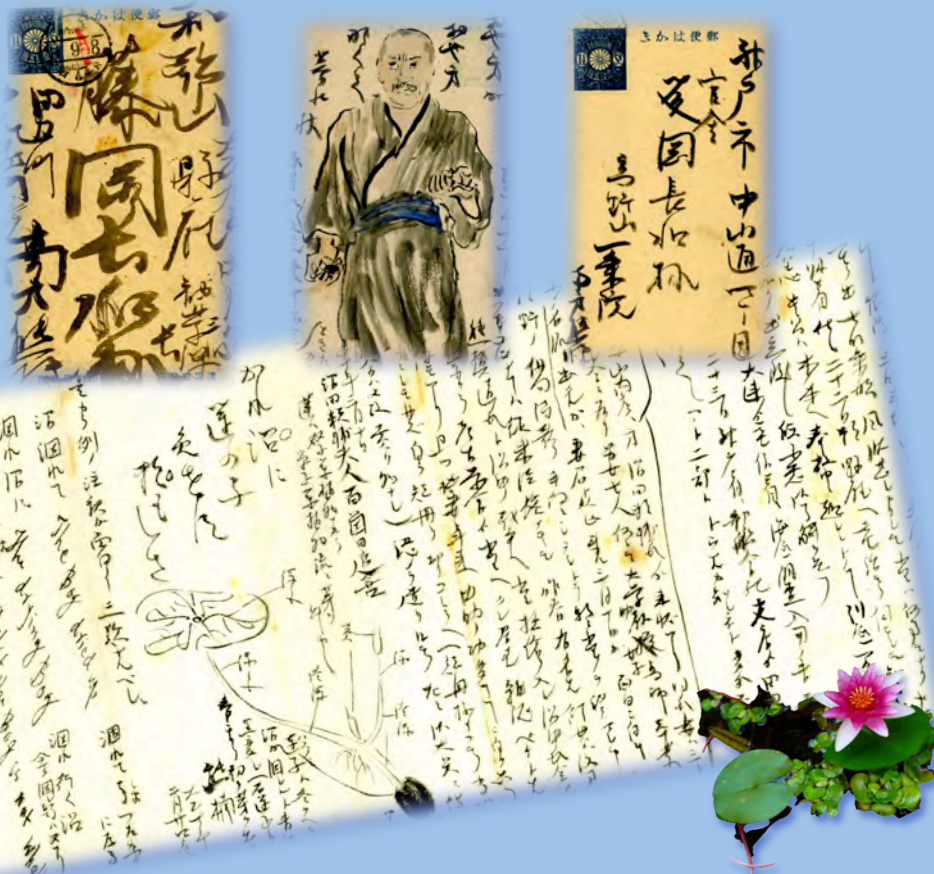


みなかたまくまぐす

「南方熊楠からの手紙」展く新発見18の資料などく



登録有形文化財「藤岡家住宅」うちのの館（やかた）

平成27年7月1日（水）く9月25日（金）

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526 番地

☎と FAX 0747 (22) 4013

E-mail info@uchinono-yakata.com

<http://www.uchinono-yakata.com>

月曜休館（月曜が祝日のときは開館して翌日休館）

9時～16時 大人 300円 小人 200円

NPO法人うちのの館



「南方熊楠からの手紙」展 ～新発見 18 の資料など～

期間：平成 27 年 7 月 1 日（水）～9 月 25 日（金）登録有形文化財「藤岡家住宅」展示室 2f

9 時～16 時開館。月曜日休館・月曜が祝日のときは開館して翌日休館。

大人（高校生以上）300 円・小人（小・中学生）200 円（20 名様以上で 2 割引）

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526 ☎と FAX0747 (22) 4013

E-mail info@uchinono-yakata.com

<http://www.uchinono-yakata.com>

南方熊楠（みなかたくまぐす）（慶応 3 年・1867 年～昭和 16 年・1941 年）は、博物学者であり、生物学者、民俗学者でもあります。和歌山県で生れ大学予備門（後の第一高等学校）を中退後、明治 19 年、19 才で渡米。ランシング大学農科に入学して中退。中南米各地を放浪し動植物の観察・採集をしました。明治 25 年英国に渡り、ロンドン学会の天文学懸賞論文に当選します。10 数ヵ国語に通じ大英博物館東洋調査部に入り資料整理に尽力しました。この頃亡命中の孫文と交遊があります。明治 33 年に帰国後は、菌類の採集、特に粘菌の研究で新種七十種を発見しました。著書に『南方閑話』『南方随筆』などがあります。

藤岡長和（ふじおかながかず）（明治 21 年～昭和 41 年・官選知事・『ホトトギス』派俳人・俳号 玉骨）は、和歌山県の内務官僚であった 30 才～33 才の頃（大正 7 年・1918 年～10 年・1921 年）より、南方と親交を深めました。平成 26 年 10 月～12 月、藤岡家所蔵の書簡と藤岡長和の多数の日記を調査したところ、熊楠から玉骨へのはがきと手紙が 17 通、そのほかに毛利清雅（ジャーナリスト、県会議員）を經由して藤岡家に届いた熊楠の「蟹」の絵が 1 通、合計 18 点の熊楠直筆の資料が発見されました。

大正 9 年高野山滞在中の熊楠から送られてきたはがきには、克明な自画像が描かれており、これほど丁寧に描かれた自画像は極めて貴重と、高く評価されています。他に蟹の絵や蓮の絵などにも熊楠の文言が添えられ、独自の世界観を表現しています。手紙には当時の政治家や文人のことなども記されています。藤岡長和という戦前の内務官僚の家に届いた一連の「熊楠」の手紙類とその関連資料などを通して、明治・大正・昭和初期の日本文化の一つの側面を見ていただけたらと思います。母屋では、ほぼ同時期に藤岡長和と交流のあった与謝野鉄幹・晶子の資料も展示しています。

展示資料（一部）・①【葉書】大正九年九月三日午後四時 和歌山市豊原町三ノ一 藤岡長和様 高野山一乗院にて 南方熊楠 ②【葉書】大正九年九月八日午後三時 大正九年九月八日午後三時 和歌山県庁勸業課長藤岡長和様 田辺町中屋敷町三六 南方熊楠 ③【葉書】大正九年九月八日午後三時過 和歌山県庁勸業課長 藤岡長和様 西牟婁郡田辺町三六 南方熊楠 ほか ④【葉書】大正九年九月十六日早朝和歌山市豊原町三ノ一 藤岡長和様 西牟婁郡田辺町 南方熊楠 大正九年九月十六日早朝⑤【封書】大正十年二月二十五日午前二時〈封筒表〉和歌山市豊原町三ノ一藤岡長和様 西牟婁郡田辺町中屋敷町三六 南方熊楠⑥【封書】大正十年三月九日午前二時〈封筒表〉和歌山市豊原町三ノ一 藤岡長和様 西牟婁郡田辺町中屋敷町三六⑦【封書】日付なし〔推定・大正十年三月二十六日〕〈封筒表〉久保君携帯 藤岡長和様 南方熊楠 ⑧【葉書】大正拾年三月二十八日午後六時 和歌山市豊原町三ノ一 藤岡長和様 西牟婁郡田辺町 中屋敷町三六 南方熊楠 大正拾年三月二十八日午後六時⑨【封書】大正十年四月二日夜十一時〈封筒表〉和歌山市豊原町三ノ一藤岡長和様 西牟婁郡田辺町中屋敷町三六 南方熊楠 ほか



「風蘭展示のお知らせ」南方熊楠展と共に、7 月初旬から約 2 週間の予定で着生植物の「風蘭（別名 富貴蘭）」（花坂保雄氏所蔵）およそ 30～40 鉢を邸内の各座敷に展示します。風蘭は江戸時代から風蘭鉢に入れ、その香りと美しさを鑑賞することが流行しました。「和漢三才図会」にも記述があり、博物学を学んでいた南方熊楠も風蘭を集めたという記述が日記に残されています。**花坂保雄様所蔵 風蘭（富貴蘭）展示 7 月初旬より**